

## 稲作の革新と種播き唄

田植唄の調べと農民が牛馬を追う声は、戦後30年代迄の農村の風物詩であった。時代の変遷は速いもので、今日では耕運機と田植機のエンジンの響きが初夏の農村の音と変わり、誰もそれを不協和音と感じなくなった。手植から機械移植となり省力化が進んだわけであるが、反面農機代に追われるという代償を支払うこととなった。

合理化というものは摩擦を伴いながらも目標が達成される頃には、次の合理化問題が起こるのが、経済変動の激しい今日の常である。農政審議会による、「21世紀へ向けての農政の基本方向」の中で、生産性の高い水稻作の確立の必要性をうたっている。その中で農地の流動化による経営規模拡大と、高生産性農業技術の開発が目を引く。私共もこの10年間、湛水土壤中直播による稲作技術の研究に取り組んできたが、漸く実用化の目途が立つようになった。機械で移植した整条植の稲と、酸素供給剤（カルパー）を粉衣した種籾をミスト機で散播したバラ播稲とに収量の差がなく、育苗の省略、機械代の節約等まさに省力低コスト稲作栽培の切札になり得るものである。

湛水土壤中直播は未だ解決すべき問題を抱えながらも、今後の日本の稲作を外圧から守り、食糧の安定供給に寄与する革新技術であるといえる。一方、如何に技術の進歩と言えども、詩情豊かな田植唄が聞かれなくなった今日、農村文化の中にせめて種播き唄ぐらい残したい心情である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事  
保土谷化学工業株式会社 農業部長 増淵保二〕

## 目 次 (第22巻第3号)

|                                                |    |
|------------------------------------------------|----|
| 巻 頭 言                                          |    |
| 稲作の革新と種播き唄……………                                | 1  |
| ＜(財)日本植物調節剤研究協会理事<br>保土谷化学工業株式会社<br>農業部長 増淵保二＞ |    |
| 微生物による雑草制御研究の現状……………                           | 2  |
| ＜農業環境技術研究所<br>農薬動態科 行本峰子＞                      |    |
| 病原菌によるクログワイの防除……………                            | 13 |
| ＜北陸農業試験場 環境部<br>病害第二研究室 鈴木穂積＞                  |    |
| 寒地における水田雑草の出葉の温度反応……………                        | 19 |
| ＜北海道農業試験場 作物第一部<br>村上利男＞                       |    |
| カンキツの着花調節……………                                 | 31 |
| ＜果樹試験場口之津支場<br>高原利雄＞                           |    |
| 昭和62年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………               | 39 |
| ＜(財)日本植物調節剤研究協会<br>技術部＞                        |    |
| 新除草剤紹介……………                                    | 51 |
| バスタ液剤<br>グルホシネート液剤<br>植調協会だより……………             | 54 |